



【2018年7月16日～7月20日】

## 1. 先週の市場動向

### 【先週の市場の振り返り】

| <株式>           | 先々週末<br>2018/7/13 | 先週末<br>2018/7/20 | 前週比    |
|----------------|-------------------|------------------|--------|
| NYダウ (米国)      | 25,019.41         | 25,058.12        | 0.15%  |
| 日経平均株価 (日本)    | 22,597.35         | 22,697.88        | 0.44%  |
| DAX指数 (ドイツ)    | 12,540.73         | 12,561.42        | 0.16%  |
| FTSE指数 (英国)    | 7,661.87          | 7,678.79         | 0.22%  |
| 上海総合指数 (中国)    | 2,831.18          | 2,829.27         | ▲0.07% |
| 香港ハンセン指数 (中国)  | 28,525.44         | 28,224.48        | ▲1.06% |
| ASX指数 (豪州)     | 6,268.39          | 6,285.85         | 0.28%  |
| <リート>          | 先々週末              | 先週末              | 前週比    |
| S&Pグローバルリート指数  | 182.82            | 181.25           | ▲0.86% |
| <債券> (利回り) (%) | 先々週末              | 先週末              | 前週差    |
| 米国10年国債        | 2.827             | 2.893            | 0.066  |
| 日本10年国債        | 0.040             | 0.035            | ▲0.005 |
| ドイツ10年国債       | 0.340             | 0.370            | 0.030  |
| 英国10年国債        | 1.273             | 1.232            | ▲0.041 |
| <為替>           | 先々週末              | 先週末              | 前週比    |
| ドル円            | 112.38            | 111.41           | ▲0.86% |
| ユーロ円           | 131.30            | 130.63           | ▲0.51% |
| ユーロドル          | 1.1685            | 1.1724           | 0.33%  |
| 豪ドル円           | 83.43             | 82.63            | ▲0.96% |
| <商品>           | 先々週末              | 先週末              | 前週比    |
| 商品 (CRB指数)     | 193.73            | 192.62           | ▲0.57% |
| 原油先物価格 (WTI)   | 71.01             | 70.46            | ▲0.77% |

#### <株式>

日米欧の株式市場は小幅に上昇しました。米国株式市場は、貿易摩擦や人民元安懸念などから上値の重い展開となりました。週前半は4-6月期決算発表が本格化し、市場予想を上回る決算を発表した企業などが上昇したことや、パウエル連邦準備制度理事会 (FRB) 議長が議会証言で、景気への自信を示したことなどを好感して上昇しました。後半は人民元安や米中や米欧での貿易摩擦懸念などから伸び悩みました。NYダウは週間では0.15%上昇しました。日本株式市場では、日経平均株価は、米国株高や良好な経済指標などを受けたドル高・円安などを好感して上昇しました。週末にかけては米国株高や円安が反転して、伸び悩みました。週間では日経平均株価は0.44%上昇しました。欧州株式市場では、ドイツDAX指数、英FTSE指数が小幅上昇しました。中国株式市場では、弱い経済指標の発表や人民元安の進行を嫌気して、上海総合指数は小幅に下落、香港ハンセン指数は下落しました。

#### <債券>

米国の10年国債利回りは、NY連銀製造業景気指数などの上振れを受けて、上昇しました。ドイツの10年国債利回りは上昇しました。英国の10年国債利回りは、低調な経済指標を受けて、低下しました。日本の10年国債利回りは小幅低下しました。

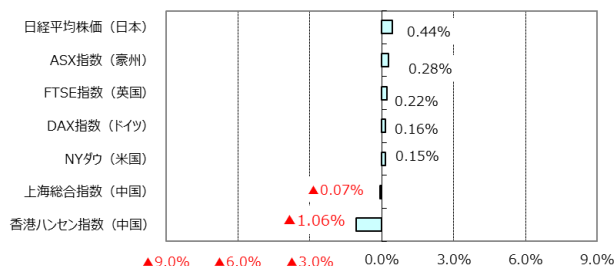
#### <為替>

円は主要通貨に対して上昇しました。対ドルでは、トランプ米大統領がFRBの利上げ路線やドル高・中国人民元安に不満を表明したことで0.86%上昇しました。対ユーロでは、0.51%上昇しました。

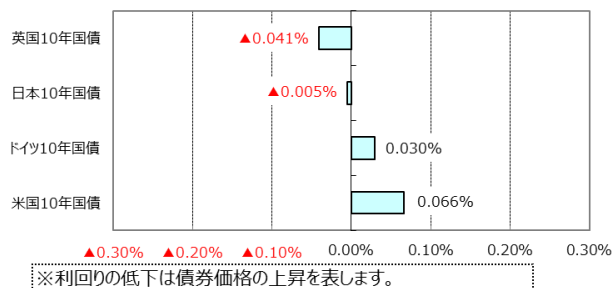
#### <商品>

原油価格はロシアの増産観測や米政府による戦略備蓄放出の可能性などを懸念して下落しました。

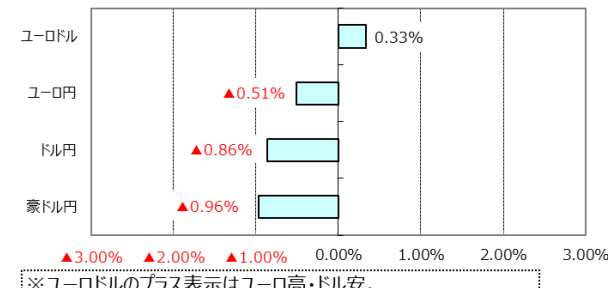
株式 (前週比)



10年国債利回り (前週差)



為替 (前週比)



(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



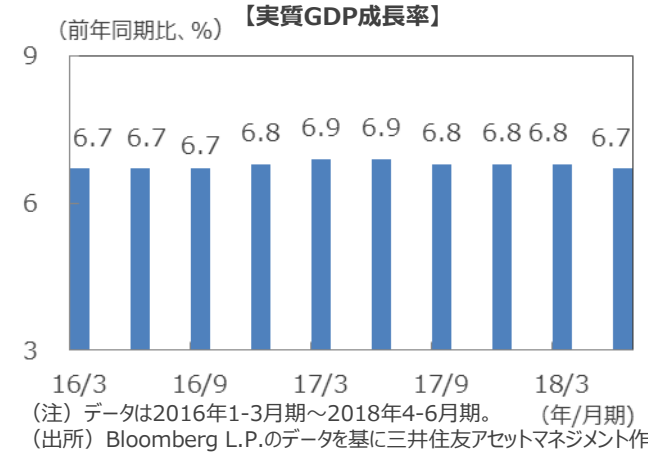
【2018年7月16日～7月20日】

## 2. 先週のマーケット・デイリー/ウィークリー

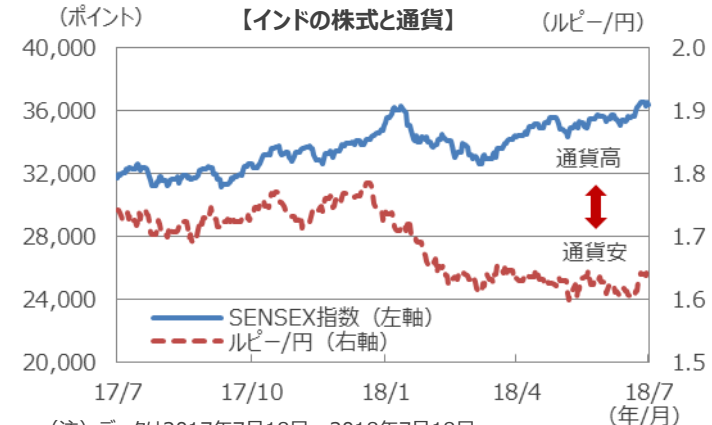
|          | テーマ                       | ポイント  |
|----------|---------------------------|---|
| 7/17 (火) | 先週のマーケットの振り返り             | 2018/7/9～7/13 マーケットの振り返り  |
| ☆        | 中国経済、成長率がわずかに鈍化 (2018年7月) | 1. 4-6月期GDPは6.7%成長、市場の予想通り<br>2. 投資や生産もやや鈍化、小売売上高は前月からやや戻す  |
| 7/17 (火) | 4-6月期GDPは6.7%、景気は緩やかな減速へ  | 3. <b>【景気は緩やかな減速にとどまる見込み】</b> 今後は、習近平指導部が掲げる、経済成長の量より質を重視する方針の下で、IT関連の生産や投資の増加が続くことに加え、地方政府のインフラ投資の抑制姿勢が緩和するとみられることが景気を下支えすると考えられます。このため、中国景気の減速は緩やかなものにとどまる見込みです。      |
| 7/18 (水) | IMFの世界経済見通し (2018年7月)     | 1. 2019年まで3.9%成長が続く見通しだが成長ペースにばらつき、2018年は先進国・地域で日本、ユーロ圏、英国が下方修正<br>2. 新興国・地域全体は高成長が続く見通し、原油価格の動向などで明暗が分かれる  |
| ☆        | インドの経済・市場動向 (2018年7月後半)   | 3. <b>【貿易摩擦の激化と政治的な不確実性の高まりに警鐘】</b> IMFは、貿易摩擦が激化し、企業のセンチメントが悪化した場合は、世界のGDPが2020年までに現在の予測値を0.5%下回る可能性がある、また、4月時点に比べ、移民政策や財政バランス、欧州の政治的な不確実性の高まりなど他のリスクも顕著になっている、と指摘しました。 |
| 7/19 (木) | 株式市場は高値更新、インド準備銀行は追加利上げへ  | 1. インド株式市場は高値更新、景気加速や企業業績改善期待<br>2. インドの消費者物価は上昇加速、インド準備銀行は追加利上げへ   |
| ☆        | 株式市場は高値更新、インド準備銀行は追加利上げへ  | 3. <b>【株式市場は底堅い展開、通貨は対円でレンジ相場】</b> 株式市場は、RBIによる利上げが見込まれるものの、インド経済の成長加速や企業業績の拡大を背景に今後も底堅い展開が期待されます。インドピーは対円で3月以降もみあいが続いており、今後もレンジ相場が見込まれます。                              |
| 7/20 (金) | 4-6月期決算が注目される日本株式市場       | 1. 米国株上昇と円安が支え、戻りの鈍さが目立つ<br>2. 米中貿易摩擦に対する懸念は残る、株価水準に割高感はない  |
| ☆        | 米中貿易摩擦が企業活動に与える影響         | 3. <b>【企業マインドと業績に注目】</b> リスクは、さらに不確実性が高まることで、企業のセンチメントが悪化し、生産や投資が手控えられてしまうことです。米中間選挙まで、米国の保護主義的な通商政策がどの程度日本の企業マインドに影響するのか、企業業績の改善モメンタムは続くのか、といった点に注意を払う必要があります。         |
| 7/20 (金) | 堅調に推移する原油価格 (2018年7月)     | 1. 価格は堅調に推移、1バレル当たり70ドル近傍で推移<br>2. 需給/バランスが好転、2018年上半年は需要超過   |
| ☆        | 景気拡大に加え、協調減産が奏功して原油需給が好転  | 3. <b>【協調減産を巡る思惑等から、価格は神経質な展開へ】</b> OPECは、2018年6月22日の総会で、減産の緩和を目指す方針を採択しました。もともと、短期的には「OPECが実際にどの程度の減産緩和（実質的な増産）を行うのか」を巡り、市場は神経質な動きになると予想されます。                          |

### ☆先週の市場動向に関連する代表的な「グラフ・図表」

☆7/17 中国経済、成長率がわずかに鈍化 (2018年7月)  
4-6月期GDPは6.7%、景気は緩やかな減速へ



☆7/19 インドの経済・市場動向 (2018年7月後半)  
株式市場は高値更新、インド準備銀行は追加利上げへ



☆ は右の「グラフ・図表」を参照。



【2018年7月16日～7月20日】

### 3. 今週の主な注目材料

| 日付          | 米国                                     | 日本  | 欧州   | アジア・オセアニア・その他                    |
|-------------|--|---|--|----------------------------------|
| 7/23 (月)    | 6月中古住宅販売件数                             |   | ユーロ圏7月消費者信頼感   |                                  |
| 7/24 (火)    | 5月FHFA住宅価格<br>7月マーケットPMI製造業・サービス業・総合指数 | 7月日経PMI製造業☆<br>6月スーパーマーケット売上高<br>6月百貨店売上高 | 7月マーケットユーロ圏PMI製造業・サービス業・総合指数☆<br>7月マーケット独PMI製造業・サービス業・総合指数 |                                  |
| 7/25 (水)    | 6月新築住宅販売件数                             |   | ユーロ圏6月マネーサプライ<br>独7月IFO企業景況感指数                             | 豪4-6月期CPI☆                       |
| 7/26 (木)    | 6月耐久財受注                                | 6月企業向けサービス価格指数                            | ECB理事会   | ブラジル6月経常収支                       |
| 7/27 (金)    | 4-6月期GDP☆                              | 7月東京消費者物価指数 (CPI)                         |  | 豪4-6月期生産者物価指数 (PPI)              |
| ☆<br>今週の注目点 | 今後の景気や金融政策などを占う上で4-6月期GDPなどが注目されます。    | 今後の景気動向をみる上で7月日経PMI製造業などが注目されます。          | 今後の景気や金融政策などを占う上で7月マーケットユーロ圏PMI製造業・サービス業・総合指数などが注目されます。    | 豪の景気動向などをみる上で豪4-6月期CPIなどが注目されます。 |

※各経済指標・イベントは予定であり、変更されることがあります。

弊社マーケットレポート

検索!!

先週の注目の「マーケット・デイリー」

2018年7月19日 インドの経済・市場動向 (2018年7月後半) 【デイリー】

2018年7月17日 中国経済、成長率がわずかに鈍化 (2018年7月) 【デイリー】

先週の「マーケット・ウィークリー」

2018年7月17日 先週のマーケットの振り返り (2018/7/9- 7/13) 【ウィークリー】

先月の「マーケット・マンスリー」

2018年7月4日 先月のマーケットの振り返り (2018年6月) 【マンスリー】

先週の注目の「マーケット・キーワード」

2018年7月19日 上昇する中国『住宅価格』、景気への影響は？ 【キーワード】



【2018年7月16日～7月20日】

【重要な注意事項】

【投資信託商品についてのご注意（リスク、費用）】

●投資信託に係るリスクについて

投資信託の基準価額は、投資信託に組み入れられる有価証券の値動き等（外貨建資産には為替変動もあります。）の影響により上下します。**基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込む**ことがあります。

運用の結果として投資信託に生じた**利益および損失は、すべて受益者に帰属**します。したがって、投資信託は**預貯金とは異なり、投資元本が保証されているものではなく**、一定の投資成果を保証するものでもありません。

●投資信託に係る費用について

ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。

- ◆直接ご負担いただく費用・・・購入時手数料 **上限3.78%（税込）**  
 ...換金（解約）手数料 **上限1.08%（税込）**  
 ...信託財産留保額 **上限2.40%**

- ◆投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用・・・信託報酬 **上限年 3.834%（税込）**

◆その他費用・・・監査費用、有価証券の売買時の手数料、デリバティブ取引等に要する費用（それらにかかる消費税等相当額を含みます。）、および外国における資産の保管等に要する費用等が信託財産から支払われます。また、投資信託によっては成功報酬が定められており当該成功報酬が信託財産から支払われます。投資信託証券を組み入れる場合には、お客さまが間接的に支払う費用として、当該投資信託の資産から支払われる運用報酬、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用等に関しましては、その時々取引内容等により金額が決定し、運用の状況により変化するため、あらかじめその上限額、計算方法を具体的に記載できません。

※なお、お客さまにご負担いただく上記費用等の合計額、その上限額および計算方法等は、お客さまの保有期間に応じて異なる等の理由によりあらかじめ具体的に記載することはできません。

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、三井住友アセットマネジメントが運用するすべての投資信託における、それぞれの費用の最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面等を事前に必ずご覧ください。

●投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。

●投資信託は、クローズド期間、国内外の休祭日の取扱い等により、換金等ができないことがありますのでご注意ください。

〔2018年5月31日現在〕

三井住友アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第399号

加入協会：一般社団法人 投資信託協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、これらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

